

群馬県立渋川青翠高等学校 学校評価一覧表 (令和6年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策		点検・評価			達成度		達成状況のまとめ及び次年度の課題		学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	総合						
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動(授業等)を行っていますか。	① 総合学科高校として特色あるキャリア教育活動に満足している生徒が80%以上である。	・1年次では系列や科目のガイダンスを充実させ、興味関心や進路希望との齟齬をきたさないよう二者面談や三者面談等できちんと確認する。また、キャンパス・企業見学やインターンシップを実施し、事前・事後学習にも積極的に取り組ませ、自らの将来を考えさせる。 ・2年次では、「自己探究セミナー」を通して自らを客観視し掘り下げさせるとともに、1年次に選択した系列ごとの学習の充実も図ることで、主体的に進路選択を考えられるように働きかける。 ・3年次では、できるだけ早くから二者面談等を行い、進路目標達成に向けて具体的な取り組みができるような準備をさせる。		A	A	A		・系列・科目ガイダンスを充実させるとともに二者面談・三者面談により、多くの生徒が納得した選択を行うことができた。キャンパス・企業見学やインターンシップ、福祉交流や外部講師による進路講話も各学年で実施でき、自身の進路について考える機会を持つことができた。		・生徒の姿が明るく、凛とした姿勢を感じた。学習成果発表会では生徒がしっかりと発表を聞いており、学校がとても良くなったと思う。また、挨拶ができてきていることも良いことである。		
		② 学校の諸活動に意欲的に取り組んでいると感じている生徒が80%以上である。	・部活動や体育祭等の学校行事を通して、学校への帰属意識を高める。入学式や体験学習会などの学校行事で生徒に係業務をさせたり、発表の機会を設けるなど、生徒に積極的に学校行事に関わらせる。		B	A	A		・今年度は文化祭の年であり、コロナ禍の影響もなく実施することができた。生徒が模擬店等、各企画に積極的に取り組む姿が見られ、過去最高の1000人を超える来場者数となった。引き続き、生徒が主体的に取り組める行事などの機会を設けたい。		・学習成果発表会では、発表者は堂々と発表しており、聞いていた生徒も刺激を受けている。興味のあることを探究していくことは楽しく、この会場で発表することで達成感があるのではないかと素晴らしいことである。 ・学習成果発表会では、発表がとても聞きやすく、伝えたいことがきちんと伝わる発表であった。総合学科の良さや、アンケート評価Aにつながっていると感じた。		
		③ 一連の学習活動(課題設定、調査・研究、まとめ、発表等)を主体的な学びであると自己評価している生徒が80%以上である。	・学年ごとのキャリア教育指導用ワークシートを活用し、生徒自らが設定した課題解決に向けたテーマに沿った「研究」が3年間を通してできるよう、導入時からの指導の充実を図る。 ・相互に研究成果を発表させることですべての生徒に刺激を与え、主体的な学びに対する意欲を喚起する。		B	A	A		・「産業社会と人間」、「自己探究セミナー」、「総合研究」において、多くの生徒が主体的かつ意欲的に取り組み、自分自身についてまたは自身の興味のあるテーマを深く考え、まとめさせることができた。この総合的な探究の時間を各学年ごとに連結させていく工夫が必要である。				
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	④ 目的意識を持って主体的に学習や資格取得に取り組む、自らを成長させようと努力している生徒が80%以上である。	・進路指導部や総合学科推進部と連携し、キャリア教育と結びつけながら、授業や資格取得への意識を高める。 ・各教科と連携し、希望者に対して放課後に検定等の補習を実施するなど、計画的に指導する。		C	B	B		・系列ごとに、積極的に資格取得に取り組む生徒の姿が見られた。 ・資格取得や検定合格を進路と結びつけて、今後も積極的に挑戦させたい。		・主体的な自分を伸ばす気持ちを持たせることは大切であり、総合研究のさらなる内容や質、発表力の向上を期待している。総合評価をフィードバックすることも大切である。		
		⑤ 学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が80%以上である。	・1年次に国語、英語、数学を中心に少人数・習熟度別授業を実施し、基礎・基本の定着を図る。 ・ICT機器を効果的に活用し、誰にとっても分かりやすい授業展開を実施する。		B	B	B		・多くの授業でICTを活用し、生徒が主体的に学ぶことができるよう積極的に授業改善に取り組んだ。 ・昨年同様オンライン授業の体制を整え、生徒や保護者の要望に合わせて実施し、授業の遅れを最小限に抑えることができた。				
		⑥ 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に1〜2回程度行っている。	・定期的な、職員会議や分掌・係・学年などの会議をして、些細なことでも生徒に関する情報交換をすることで、全職員の共通理解を図る。		A	-	A		・職員会議、運営委員会、学年会議、各分掌会議と生徒の状況を把握する機会があり、定期・不定期の情報交換がされている。また、議事録を管理職に必ず提出して、教職員全体で情報共有できるようにしている。		・遅刻が多いということで、私立学校のようにバスなどを運行することは難しいと思うが、今後も粘り強く対応をお願いしたい。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ 部活動等への加入率が70%以上である。	・部活動紹介や部活動見学の際に、部活動をする意義を伝えと共、魅力ある活動を通して加入率を高める。		B	C	C		・部活動加入率は68%である。現状を継続するとともに、新入生に対する部活動紹介の内容を充実させて、来年度以降は70%以上の加入率を達成したい。		・自己評価と外部評価がAとCで2段階の差があるのはなぜか、現状の分析と今後の対応をお願いしたい。		
		⑧ いじめの解消率が90%以上である。	・学校いじめ防止基本方針、学校いじめ防止プログラム、学校いじめ対応マニュアルを生徒、保護者に周知し、未然防止、早期発見、早期対応を徹底して、いじめの根絶を図りたい。		A	C	B		・今年度のいじめ認知件数は9件であった。いずれも「いじめの疑い」の段階や、早期の対応により、大きなトラブルにならずに、解消及び解消に向かっている。教職員に対しては、いじめ防止対策推進法によるいじめの定義の確認やいじめが発生した際の対応方法について研修し、周知している。		・部活動は生徒も興味があり、楽しいものだと思うので、生徒からアンケートをとるなどして生徒の希望の活動内容や、ズームでの活動などもできると良いのではないかと。 ・部活動もバイトもしたいという生徒や、遠方から通学していることなどが、部活動の加入率に影響を与えていると思われる。今ある部活動だけでなく、自分のやりたいことを部活にできれば加入率は増えるだろう。		
		⑨ 基本的な生活習慣を身に付け、服装髪など身だしなみがしっかりしている生徒が90%以上である。	・基本的生活習慣の確立、挨拶や身だしなみについて生徒の意識を向上させるように、全職員が共通理解のもと指導する。		C	A	B		・年5回の定期試験最終日などを利用して、定期的・組織的に服装・髪指導を行っている。身だしなみ指導については、教職員が同一歩調で、生徒へ公平な指導ができるように、身だしなみ指導体制の再構築の検討を実施したい。		・遅刻が多いという生徒に対しては、担任から家庭に連絡を入れることを徹底して、遅刻から欠席につながることを防ぐように、早期対応をする。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	・各行事やテストを実施後、自己に対する理解と課題を発見させ、成長を促す。 ・総合的な探究の時間とLHRを効率的に組合せ、3年間を見通した一貫性のあるキャリア教育を実施する。その際に「高校卒業時の進路」を「その後の自己の生き方」につなげるための考察の機会を各学年に必ず設ける。		A	A	A		・進路実現に向けて積極的に考えている生徒について全体の回答結果は向上している。今後も他分掌と連携し、現状を把握した上での指導計画を考察し、3年間の総合的な探究の時間の計画について、生徒の実情に即したキャリア教育を実現していくことを目指したい。		・進路実現率が目覚ましくアップしたのは先生方の努力の賜物である。コロナが5類に移行されたことや働き方の多様化もあり、保護者の考え方が柔軟になり様々な選択肢があることを理解していただけていると思う。 ・進路実現には手のかかる生徒がいる中で、先生方は大変な思いをされていると思う。中学校も私立やサポート校への進学が思くなり、配慮が必要な生徒が増えている。手厚く支援をしながら、それに見合うような進路選択ができるよう、青翠高校は生徒を支えてくれている学校であり、感謝している。		
		⑪ 生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。	・三者面談で、進路希望について必ず確認する。 ・進路希望調査実施前に家庭で保護者と進路について相談させる。		A	A	A		・将来の進路志望の理解について、理解しているという回答が生徒93%に対し保護者が90%であった。昨年度は7%の差があったが、この差を少なくすることができた。今後も三者面談等で確実に確認していきようとする。		・3年生になるまでに進路希望が変わった生徒へのフォローをお願いしたい。		
		⑫ 進路だよりを必要に応じて随時(年間1〜2回以上)に発行している。	・進路だよりを毎月発行し、本校卒業生の進路状況や学習状況、入試の動向や求人状況など、進路関連情報を提供する。 ・発行の際は一斉メールで保護者に連絡し、Webページにアップする。 ・生徒の進路希望別に随時集会を設け、情報の提供を行う。		A	B	B		・必要に応じ随時発行することはできたが、外部アンケートでの評価が低かったため、分掌内での役割分担を明確にし、発信する情報をより深いものにしていきたい。				
V 日常的な相談活動が充実していますか。	9 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑬ 定例会議を月1回以上開催する。	・悩み等を抱えている生徒の職員間の情報共有とそれに伴う迅速な初動対応ができるように、解決に向けてチームで協働する。特に、学年会議での生徒情報を定期的(会議形式、回覧形式)に係で共有する。		A	A	A		・原則、定例会議を実施し、生徒の情報交換や教育相談に関する業務等を共有した。実施が難しい時は、学年会議での生徒情報を回覧し情報共有を図った。次年度は、可能な限り定例会議を時間割に組み、チームとして協働する体制を強化したい。		・カウンセリング利用者が他校より多いが、青翠高校は子どもの悩みを早めにキャッチし、それを克服する実体験につなげるなどの手厚いフォローをしていることをもっとアピールすれば、保護者も安心して子どもを預けられるのではないかと。		
		⑭ 教育相談通信・スクールカウンセラー通信を定期的(年間6回以上)に発行する。	・生徒や保護者のニーズにあった内容のSC通信並びに教育相談通信を発行する。また、係職員が輪番制で作成することにより、内容の幅を広げ、効果的な情報発信を行う。		A	C	A		・定期的に発行することはできたが、外部アンケートでの評価が低かったため、生徒や保護者のニーズにあった内容の掲載を心がけ、情報を提供できるようにしていく。				
		⑮ 学校の教育活動を地域及び関係機関の方々に理解してもらうために「学校公開」を年3回以上実施している。	・授業公開や体験学習会など、多くの方に興味を持っていただけるよう、内容を工夫する。 ・学校の教育活動を伝えるために学校通信を発行する。 ・Webページの内容を充実させる。		A	A	A		・授業参観や授業公開を実施した。また、オープンスクールでは施設見学を生徒が行うなど、生徒の活動を多くの方々に見ていただくことができた。 ・学校通信を定期的に発行し、生徒や保護者、中学校へ発信することで、学校の教育活動を知っていただくことができた。今後も発信を継続したい。		・地域の夏祭りなどの行事に、青翠高校の部活動にも出演してもらい、盛り上げていただいた。大変好評で、来年度もお願いしたい。		
VI 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯ PTA総会、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が80%以上である。	・PTA総会、PTA諸会議、マナーアップ運動、PTA研修会などのPTA活動をより参加しやすいよう改善を図り、各学校行事に家庭や地域社会が積極的に関わられるよう、魅力的な内容となるよう改善を進める。 ・PTA新聞通じて本校の諸活動や生徒の様子を広く家庭や地域に伝える。また、Webページやオクレンジャーを効果的に活用し、広報活動や連絡を徹底する。		A	D	B		・PTA総会や学年部会、PTA研修会等も役員を中心に滞りなく行うことができた。PTA新聞作成においては、写真選定をオンライン形式にすることで、全ての役員に参加していただいた。マナーアップ運動も年1回になったことで、多くの役員が参加していただいた。今年は文化祭も行われ、コロナ禍前の状態に戻り、役員が協力して、食べ物を提供するブースを担当いただき大盛況であった。今後も対面で参加していただく行事もあるが、Googleフォームなどを活用し、保護者への負担軽減を図りつつ学校への協力や理解が得られるよう努めたい。PTA総会を含め、PTA活動について見直す時期にきていると考える。		・PTA活動では、仕事をしている保護者も多く、参加しなくてもできない場合がある。PTA本部役員は小学校からしている方がほとんどで、役員をしてもらえる保護者もある程度決まってしまう。PTA活動自体を見直す時期にもきているだろうが、オンラインで実施するなどの参加しやすいPTA活動を考えていただきたい。ただ、PTA総会までオンラインにしまうと、集まる機会が減り、寂しいことである。		
		⑰ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施している。	・各系列の学習内容や生徒の興味、関心(特に進路)に合わせてテーマを選び、講演会を実施する。		A	-	A		PTA研修会では、県内の大学や短大、元PTA会長を講師とした分野別進路研修会を今年度も実施することができた。今後も実態に即した講師の選定や企画を考察したい。				
		⑱ ICTを活用した授業に満足している生徒が80%以上である。	・ICT機器を効果的に用いるとともに、Googleクラスルームの活用を推進する。また、オンライン授業の体制を整える。		A	A	A		・プロジェクター等の機器を活用し、生徒がわかりやすい授業を行うことができた。また、オンライン授業の体制を整えることができた。 ・Googleクラスルームを積極的に活用し、各種通信等の情報発信を行うことができた。				
VII 教育デジタル化に努めていますか。	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲ オンラインによるアンケートを3回以上実施している。	・学校評価アンケート、授業アンケート、学校行事の振り返り等、オンラインで実施する。		A	A	A		・各種アンケートにGoogleフォームを活用した。また、3年の総合研究においても活用する生徒が多かった。				
		13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。			A	A	A						